



### 保育者の思い

今回の遊びの場面のように、最初は1人1人思っていることは違っても、自分の思いをいろいろな形(言葉・行動・態度・表情等)で表す事で一つの遊びに繋がっていくことが多くあります。

友達とどう関わったら良いか悩んでいることも多くあります。保育者の声かけだけではなく、見守り、自分で考えて友達とどうコミュニケーションをとっていけばよいかを考えていくことを大事にしています。

子どもの表情を見て「できた」という時は大きく褒め、言葉に変えて達成感を味わえるように関わっています。

### 子どもの育ちや学び

・自分のしたことでも周りが喜んでくれたり、思いを 受容・共有・自信受け入れてもらう経験

・友達の言葉やアイデアを聞いて行動に移す 試す力  
 ・同じ遊びの場にいる友達への意識 言葉で伝える力・聞く力  
 ・コミュニケーション能力  
 ・友達とのつながり  
 ・物事への気付きや発見

水量への気付き、用具の選択  
 水の流れの仕組み(高いところから低いところへ流れる理解)

・保育者の見守り 安心感  
 ・イメージを形にしようとアイデアを探求する意欲

### エピソード

砂場で K 児が透明の細長いホースにジョウロで水を流し始めました。それをみていた I 児が「水でできた。温泉つくれそう」とホースの水が出てくる部分を嬉しそうに上に持ちあげました。しかし K 児は不満そうに「水流れないやん。流す方が一番高く出てくる方が一番低くないと水でてへんから下に置いて」と I 児に伝えました。すると I 児は K 児に「これでいい?じゃ温泉つくるからもっといっぱい流して」と伝えました。K 児は「でもこのジョウロ、水すぐなくなるねん」と周りを見渡して、笑顔で「あっちょっと待って」とその場を離れ、大きいやかんを持ってきて水を汲んで細長いホースに流しました。その様子を H 児がジョウロを持ってずっと近くでながめています。「めちゃこぼれるやん。なんでなん」と怒っている K 児をみて H 児はやかんの指さして「全部ここ(やかんの注ぎ口)が(ホースの口)に入っていないからやん」とつぶやきました。すると、それを聞いた K 児は「あっわかった」と思いついたかのように透明の太いホースを持ってきて、やかんの注ぎ口を太いホースにさして水を流しました。K 児は嬉しそうに保育者の方を見ました。保育者も笑顔で「ぴったりやん。よく考えたね」と応えました。I 児にも「I 君どう?いっぱい流れてきたやろ」と言うと I 児は「うん。いいかんじ」と K 児の方を見て笑顔で親指を立てました。その後 K 児がやかんの中を見ながら「なくなってきた」と言っているのを聞いて、近くにいた H 児がジョウロに水を汲みにいき、やかんにジョウロの水を入れました。K 児は「うん。これが1番いい」と満足気な様子で遊びが進んでいきました。

### 家庭だったら・・・

子どもの言葉や態度、表情で困ったことや疑問を表した後、大人はついすぐに「〇〇やん」や「〇〇したらいいやん」と答えや自分の思いを伝えがちです。そのような場面では、一緒に考えたり、少し待ったり、自分で考えられるような機会を作ることで子どもの気づきを引き出し、共感できたり、認めることができ子どもの自信に繋がります。